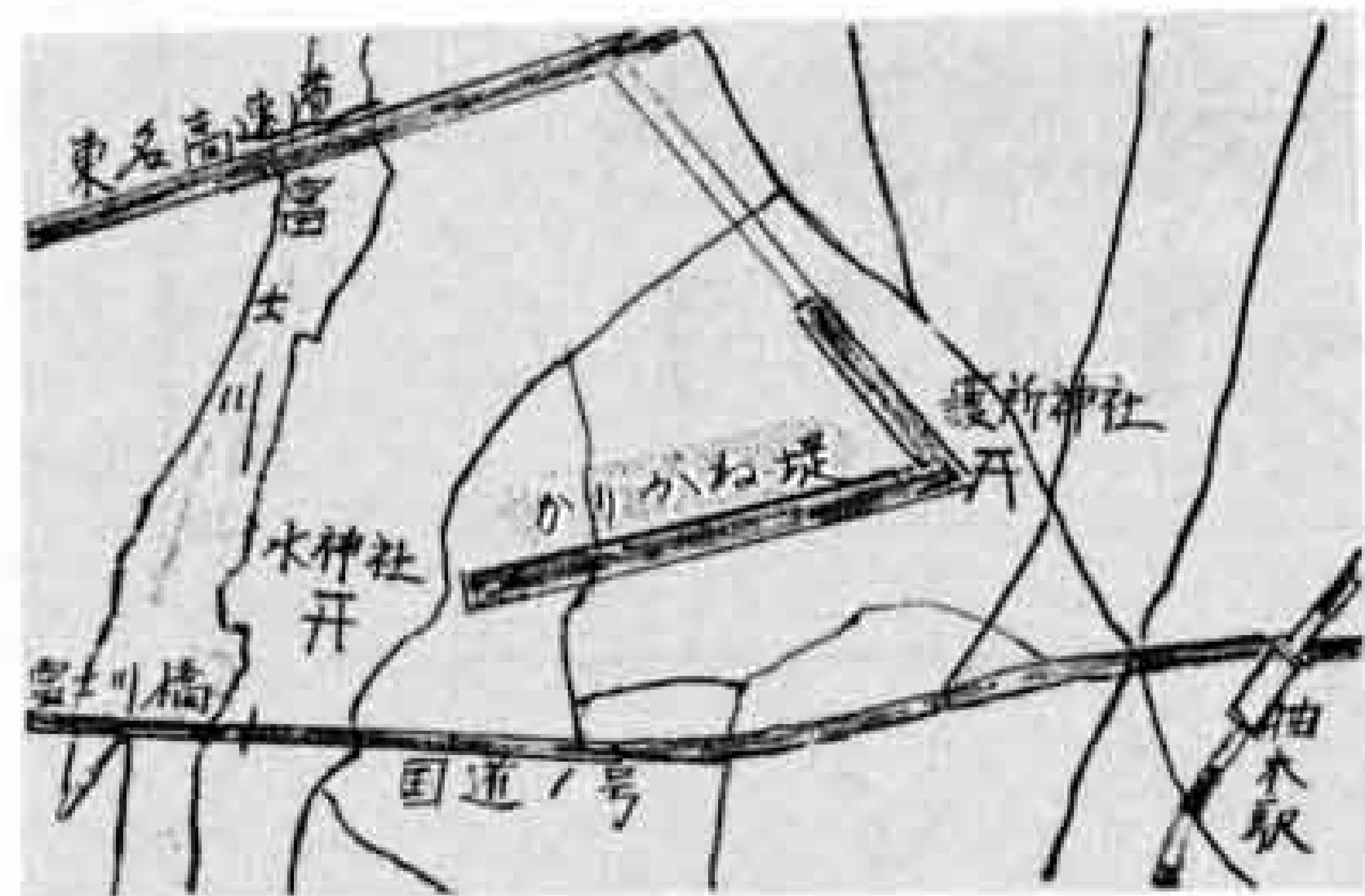


私の好きな風景

3

スケッチ画と文
新興美術院富士支部
草間 勝さん
富士市広見東本町十四一三

かりがね堤



富士川橋の手前、水神の森を北に折れると約百メートルでかりがね堤に出ます。私とこの堤との出会いは、富士市民大学歴史講座でした。ここは二百年前に築かれたと言われ、巡礼の人柱伝説など数々の歴史が込められています。堤から眺める富士愛鷹の山々は、四季を通して飽くことのない装いを見せ、時折高い煙突から出る白い煙がたなびながら山ろくに消えていく風情は、また格別の趣があります。

あるときは遊水池内の道を歩きながら、小鳥たちとのふれあいを楽しみ、また肌寒い早春の堤を覆う枯れ草の間にひっそりと咲いている、タンポポやスミレに心を温められることもあります。また堤を横切る東名高速道路からは、ひっきりなしに走る車のエンジン音やタイヤのきしむ音が聞こえますが、さらに耳を澄ませば、この地底から巡礼の鐘の音も聞こえてきそうです。私は自然の厳しさや美しさ、そして人間の活力とが一体となって見えるこの堤に魅せられ、足を運ぶことしばしばです。

こちら編集室

女性だけの「日本酒を飲む会」があります。誘われると、ついつい会員になってしまうところが、飲ん兵衛の人のよさみたいな気がして自分でも苦笑い。
ずっと昔、飲むと決まって、ふっと寂しそうな目をしてから、ふ

う〜とたばこの煙を吐き出す人がいたっけ。遠くからそれを見るとき胸がキューンとなって、お酒を飲むものより息苦しくなりました。今の私が息苦しくなるのは、飲み過ぎたときだけ。やっぱり、お酒は気楽な女同志に限るみたい。

“梅雨（つゆ）”って言葉の響きはよいけれど、むしむし、じめじめして嫌な季節ですよ。私は、毎朝編集室まで階段を歩いて上がるんですが、ようやくたどり着くと、もう汗でぐっしょり。
ハンカチでフキフキ、うちわでパタパタ。運動して汗をかくのは気持ちいいものですが、この時期は、じっとしていても汗が出ます。首から乾燥剤をぶら下げて仕事をしようかと、真剣に考え始めている、きょうこのごろです。

2、4ページのカットは、黒田とみじさん

広報ふじは環境にやさしい再生紙を使っています